

新機能① BM(ベンチマーク)観測機能

レベル計測や3次元での墨出しを行う際の基準レベルを簡単に設定できるようになりました。

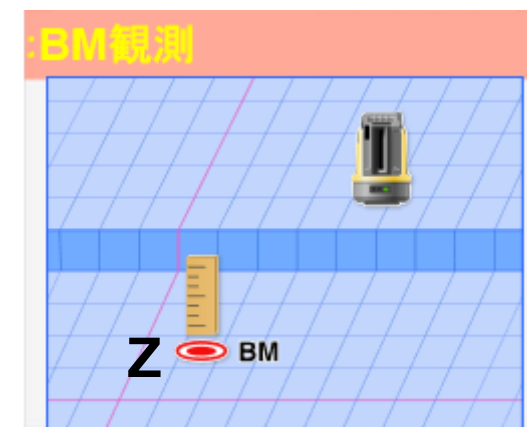
これまで

高さ情報を持った登録座標点を使って
器械位置と高さ計算をする必要がありました。

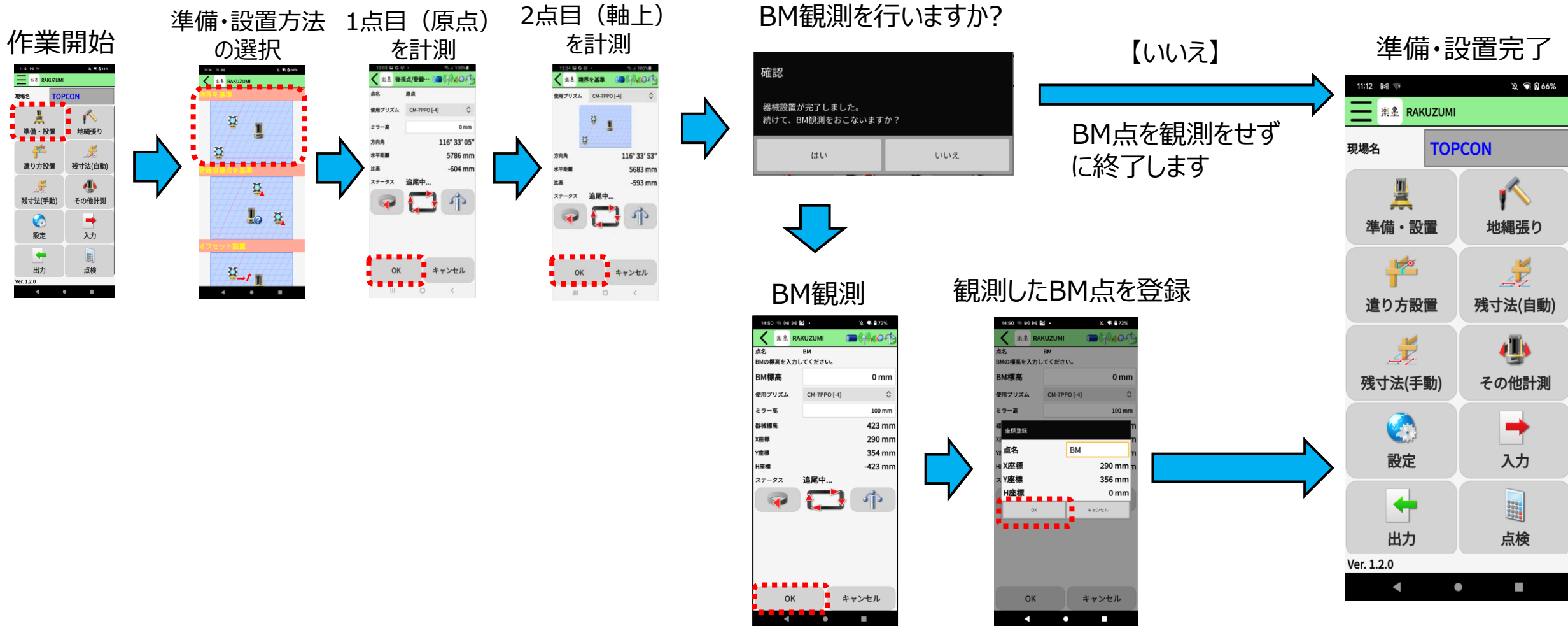


V1.2.0

いつでもBM観測ができる機能が追加されました。



新機能① BM(ベンチマーク)観測機能 作業の流れ



ここでは"準備・設置"方法のうち"境界を基準"法を使いましたが、他の方法でも同様にBM観測を行うかのメッセージが表示されます。

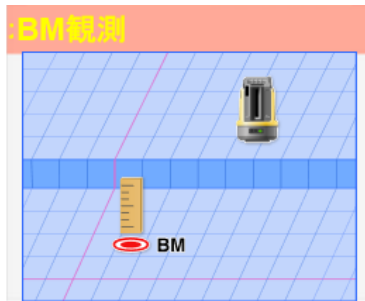
新機能① BM(ベンチマーク)観測機能 後から観測

準備・設置が完了していても、後からBM観測を行うことができます。

作業開始



BM観測を選択



BM点を観測



観測したBM点を登録



BM観測完了



既にBM観測が完了されている場合は、この作業によりBM情報が上書きされます。

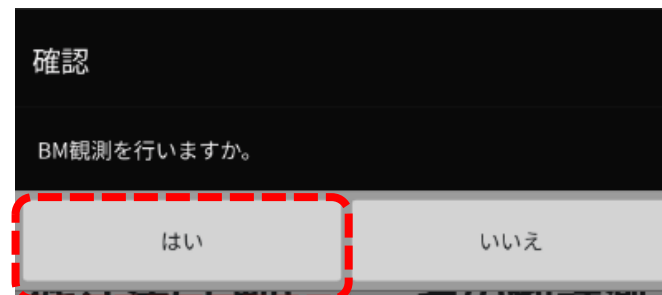
新機能① BM(ベンチマーク)観測機能 遣り方設置の場合

遣り方設置はBM観測が必須となります。

BM観測をまだ行っていない場合



BM観測済みの場合



【OK】

【はい】



“いいえ”を選択した場合は観測済みのBM情報を使用します。

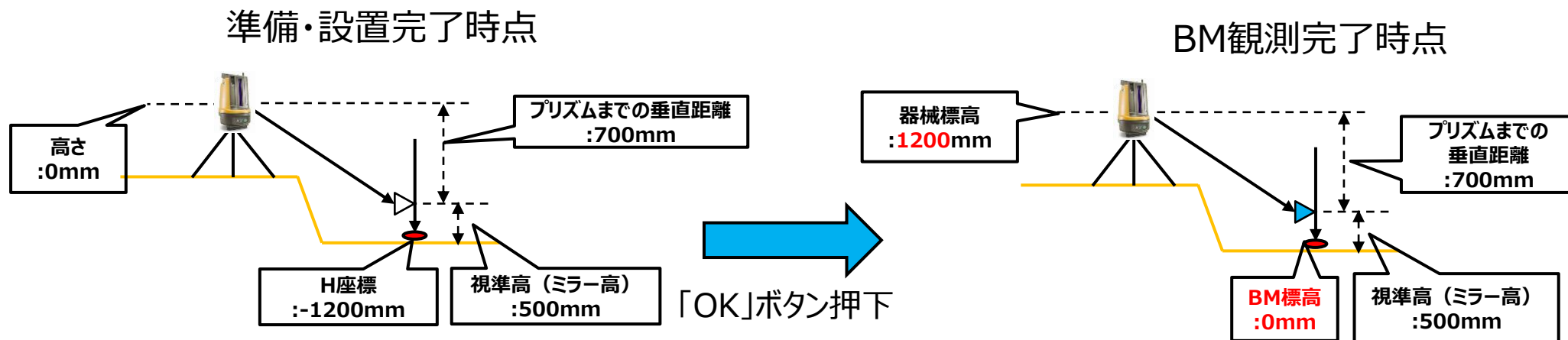
(参考) BM観測とは

BM点のH座標から、器械高低差・器械高を差引いて器械点標高とする。

例として、
器械設置が完了した時点では、LNの器械高マークの位置を高さ 0 mmとして計測を行います。

左画面を例とすると、
ミラー高を 500mm とした入力した状態で、H座標の値が **-1200mm** と表示されています。
これは図解すると下図左のような位置・数値関係となっています。

この際に、BM標高が 0mmと入力して、「OK」ボタンを押すと、
下図(右)のように、H座標-1200mmの位置を**BM標高 0mm**とし、器械高マークの位置が **器械標高 1200mm**と設定されます。



新機能② 出力ファイルへの情報追加

BM情報とタイムスタンプが各種出力ファイルに追加されます。

- 1行目 : ヘッダー
2~4行目 : A1~A3 点A1~A3は既存の器械設置を元に計測したもの
5行目 : BM BM点の出力
6行目 : A4 A1~A3と同じ高さの位置を計測した点
7行目 : A5 器械設置に使用した点と同じ高さの位置を計測した点

上記はその他計測(放射観測)の出力ファイルの例となります。(単位:mm)

出力ファイルの末尾に
タイムスタンプを表示します。

	A	B	C	D	E
1	点名	X	Y	Z	日時
2	A1	836	675	-326	2023/2/21 11:55
3	A2	717	204	-326	2023/2/21 11:55
4	A3	596	-280	-326	2023/2/21 11:55
5	BM_BM	405	17	0	2023/2/21 11:56
6	A4	216	322	0	2023/2/21 11:56
7	A5	36	293	326	2023/2/21 11:56

データ(ファイル)を後から見た際に
判断が付くようにBM点は
「点名_BM」として記録・出力します。

